



姉妹都市盟約50周年記念事業

小杉放菴展

小杉放菴記念日光美術館所蔵作品を中心に

Sister Cities 50th Anniversary Commemorative Program
KOSUGI Hoan: Works from the Kosugi Hoan Museum of Art, Nikko and more

2024年11月16日[土] - 2025年1月26日[日]

出品目録及び小杉放菴略年譜

八王子市夢美術館
Hachioji Yume Art Museum

1

小杉放菴

神橋

1901年頃
紙/水彩
34.0×50.9cm
小杉放菴記念日光美術館蔵



2

小杉放菴

東照宮・陽明門と鼓楼

1900年代
紙/水彩
33.5×50.4cm
小杉放菴記念日光美術館蔵



3

小杉放菴

東照宮

1900年代
紙/水彩
60.6×72.7cm
小杉放菴記念日光美術館蔵



4

小杉放菴

東照宮・上神庫

1900年代
紙/水彩
50.5×30.4cm
小杉放菴記念日光美術館蔵



5

小杉放菴

農夫

1912年
カンヴァス/油彩
33.0×24.0cm
小杉放菴記念日光美術館蔵



6

小杉放菴

入江の一角
(ブルターニュ風景)

1913年
カンヴァス/油彩
46.0×61.0cm
小杉放菴記念日光美術館蔵



7

小杉放菴

飲馬

1914年
カンヴァス/油彩
74.0×150.0cm
小杉放菴記念
日光美術館蔵



8

小杉放菴

黄初平

1915年
カンヴァス/油彩
52.0×45.3cm
小杉放菴記念日光美術館蔵

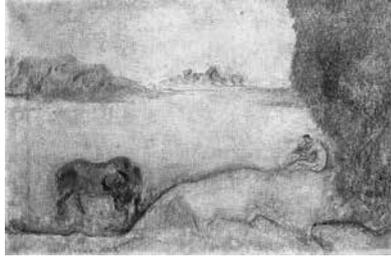


9

小杉放菴

牧童

1916年頃
カンヴァス/油彩
40.0×60.6cm
小杉放菴記念日光美術館蔵



10

小杉放菴

風景習作

1910年代
紙本着色
480.×165.8cm
小杉放菴記念
日光美術館蔵



11

小杉放菴

風景習作

1910年代
紙本着色
37.8×125.0cm
小杉放菴記念
日光美術館蔵



12

小杉放菴

列仙屏風

1915年
絹本着色
六曲一双
167.0×
(一隻)369.0cm
小杉放菴記念
日光美術館蔵



13

小杉放菴

かぐや姫

1915年
紙/コンテ・淡彩
36.0×36.2cm
小杉放菴記念日光美術館蔵



14

小杉放菴

海南の美 薩摩富士

1916年
紙/コンテ
20.0×67.5cm
小杉放菴記念
日光美術館蔵

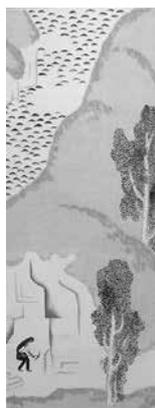


15

小杉放菴

石切山

1916年
絹本着色
114.9×41.0cm
小杉放菴記念日光美術館蔵



16

小杉放菴

水郷図

1917年
絹本着色
21.5×29.0cm
小杉放菴記念日光美術館蔵



17

小杉放菴

煉丹

1917年

絹本着色

156.8×70.4cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



18

小杉放菴

湖山春色

1917年頃

絹本着色

143.0×50.4cm

大木コレクション

小杉放菴記念日光美術館蔵



19

小杉放菴

秋思（窓辺佳人図）

1918年

絹本墨画金泥

136.5×51.0cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



20

小杉放菴

水荘訪客

1918年

絹本着色

157.2×70.6cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



21

小杉放菴

漁夫

1919年頃

絹本着色

140.0×50.6cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



22

小杉放菴

雨

1920年頃

絹本着色

63.5×71.0cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



23

小杉放菴

観梅図

1920年代前半

絹本着色

36.1×5.9cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



24

小杉放菴

大黒天

1924年

紙本墨画淡彩

93.7×48.0cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



25

小杉放菴

裸婦

1924年

紙/墨・コンテ

75.8×57.6cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



26

小杉放菴

騎馬

1925年頃

紙/コンテ・水彩

26.5×37.5cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



27

小杉放菴

双馬図

1925年

カンヴァス/油彩

53.0×72.9cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



28

小杉放菴

泉（断片）

1925年頃

カンヴァス/油彩

115.0×103.0cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



29

小杉放菴

母子採果

1926年頃

カンヴァス/油彩

116.0×90.3cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



30

小杉放菴

帝国議会開院式臨御（習作）

1928年頃

カンヴァス/油彩

64.0×51.5cm

笠間日動美術館蔵



31

小杉放菴

巖島風景

1933年

カンヴァス/油彩

71.0×89.0cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



32

小杉放菴

奥の細道 那須

1920年代後半

紙本墨画淡彩

26.7×20.0cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



33

小杉放菴

奥の細道

末の松山

1921年代後半

紙本墨画淡彩

26.7×20.0cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



34

小杉放菴

奥の細道

平泉

1922年代後半

紙本墨画淡彩

26.7×20.0cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



35

小杉放菴

奥の細道

象潟

1923年代後半

紙本墨画淡彩

26.7×20.0cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



36

小杉放菴

墨竹蠅螂図

1930年代前半

紙本墨画淡彩

138.0×32.0cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



37

小杉放菴

漁樂図

1930年代前半

紙本墨画淡彩

115.4×95.2cm

幸文庫旧蔵

栃木県指定有形文化財

小杉放菴記念日光美術館蔵



38

小杉放菴

漁村夕陽

1930年代前半

紙本墨画淡彩

49.5×60.2cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



39

小杉放菴

竹雨

1933年頃

紙本墨画淡彩

44.0×55.5cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



40

小杉放菴

蒼海

1933年

紙本墨画淡彩

49.0×60.0cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



41

小杉放菴

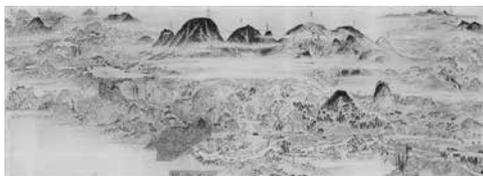
日光全圖

1931年頃

紙/水彩

36.8×99.1cm

小杉放菴記念
日光美術館蔵



42

小杉放菴

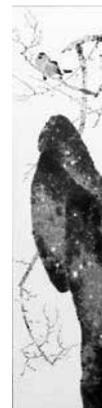
南枝早春

1936年頃

紙本墨画淡彩

133.6×31.8cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



43

小杉放菴

木蓮にひよ

1935年頃

紙本着色

48.8×48.0cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



44

小杉放菴

辛夷にうそ

1940年頃

紙本着色

50.8×60.4cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



45

小杉放菴

ウソ

制作年不詳

紙/水彩

18.9×22.4cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



46

小杉放菴

ウソ

制作年不詳

紙/水彩

17.2×24.3cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



47

小杉放菴

ウソ

制作年不詳

紙/水彩

17.2×24.3cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



48

小杉放菴

仙山朝陽

1930年代後半

紙本着色

51.3×58.5cm

小杉放菴記念日光美術館蔵

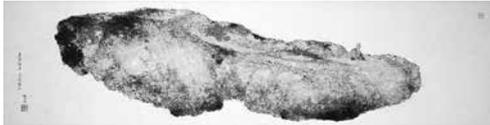


49

小杉放菴

白雲幽石図

1930年代
紙本墨画淡彩
38.0×148.0cm
小杉放菴記念
日光美術館蔵



50

小杉放菴

岩上の老人

1930年代
紙本墨画淡彩
38.9×46.5cm
笠間日動美術館蔵

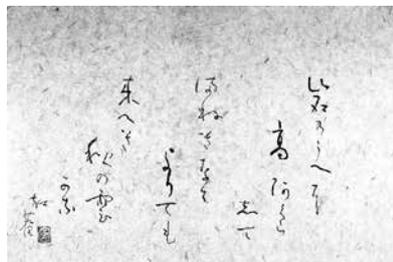


51

小杉放菴

秋の雲

1960年頃
紙本墨書
30.4×45.7cm
笠間日動美術館蔵

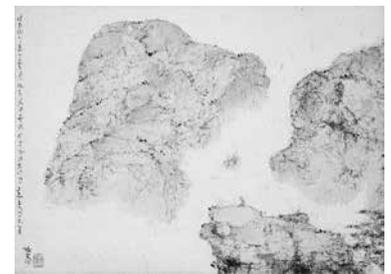


52

小杉放菴

はる山に

1940年代前半
紙本着色
33.0×24.0cm
小杉放菴記念日光美術館蔵

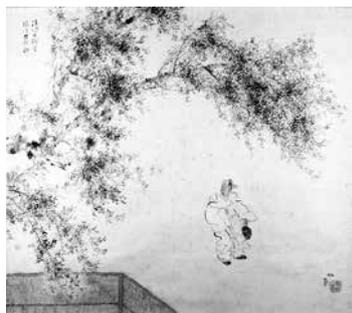


53

小杉放菴

陶淵明

1950年頃
紙本墨画淡彩
51.5×57.8cm
笠間日動美術館蔵



54

小杉放菴

金太郎

1960年代
紙本墨画淡彩
29.8×28.2cm
笠間日動美術館蔵



55

小杉放菴

山翁奉仕

1944年
紙/コンテ
66.5×50.5cm
栃木県指定有形文化財
小杉放菴記念日光美術館蔵



56

小杉放菴

静物

1946年頃
カンヴァス/油彩
42.0×85.5cm
小杉放菴記念
日光美術館蔵



57

小杉放菴

浦島

1947年頃
カンヴァス/油彩
96.0×66.8cm
小杉放菴記念日光美術館蔵



58

小杉放菴

良寛

1958年頃
カンヴァス/油彩
90.0×48.9cm
小杉放菴記念日光美術館蔵

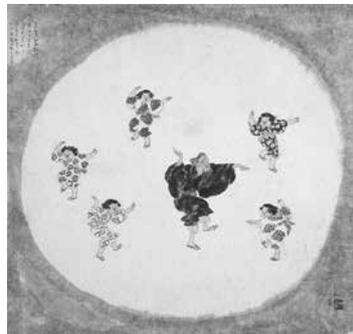


59

小杉放菴

踊る良寛

1950年代
紙本着色
55.0×57.0cm
大木コレクション
小杉放菴記念日光美術館蔵



60

小杉放菴

天狗舞

1960年代
紙本着色
30.4×29.4cm
大木コレクション
小杉放菴記念日光美術館蔵

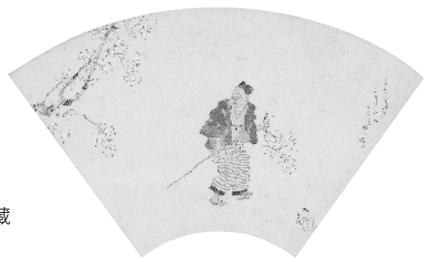


61

小杉放菴

一茶

1950-60年代
紙本着色
39.0×43.0cm
大木コレクション
小杉放菴記念日光美術館蔵



62

小杉放菴

倦鳥

1950年代
紙本墨書
20.6×23.7cm
笠間日動美術館蔵

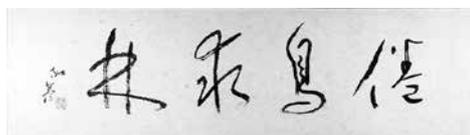


63

小杉放菴

倦鳥求林

1950年代
紙本墨書
22.1×79.8cm
笠間日動美術館蔵



64

小杉放菴

求林莊

1950年代
紙本墨書
49.5×20.5cm
笠間日動美術館蔵



65

五百城文哉

滝尾神社・鳥居

1892-1905頃

紙/水彩

46.7×62.7cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



66

五百城文哉

四本龍寺・三重塔

1892-1905頃

紙/水彩

51.2×34.6cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



67

河久保正名

大猷院・拝殿内部

明治後期

紙/水彩

49.8×33.3cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



68

吉澤儀造

日光の初雪

1899年

紙/水彩

29.5×49.5cm

小杉放菴記念

日光美術館蔵



69

田淵 保

日光駅前風景

明治後期

紙/水彩

32.8×49.6cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



70

沼辺強太郎

大猷院・仁王門

明治後期

紙/水彩

46.0×33.0cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



71

吉田 博

杉並木

1894-1899年頃

紙/水彩

50.3×68.2cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



72

河合新蔵

東照宮・唐門

1890年代

紙/水彩

51.7×34.9cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



73

丸山晚霞

東照宮・鳥居

1900年頃 紙/水彩
25.6×34.5cm
小杉放菴記念



74

石井柏亭

中禪寺湖畔

1908年
紙/水彩
25.5×34.5cm
小杉放菴記念日光美術館蔵



75

石川欽一郎

神橋

1900-10年頃
紙/水彩
33.0×49.6cm
小杉放菴記念日光美術館蔵



76

N.HISANO

東照宮・神楽殿と上社務所

制作年不詳
紙/水彩
33.8×51.4cm8
小杉放菴記念日光美術館蔵



77

ロバート・ウィアー・アラン

陽明門

1907年
紙/水彩
74.0×51.5cm
小杉放菴記念日光美術館蔵



78

ウォルター・ティンデル

日光の庭園

1909年頃
紙/水彩
25.7×36.1cm
小杉放菴記念日光美術館蔵



79

クレメント・パーマー

神橋

1890年代
紙/水彩
20.1×30.1cm
小杉放菴記念日光美術館蔵



80

アルフレッド・イースト

中禪寺

1889年頃
紙/水彩
26.2×36.8cm
小杉放菴記念日光美術館蔵



81

ジョン・ヴァーレー・ジュニア

神山旅館

1890年

紙/水彩

27.0×36.7cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



82

アルフレッド・パーソンズ

日光の小堂

1892年頃

紙/水彩

28.4×46.4cm

小杉放菴記念日光美術館蔵



小杉放菴 略年譜

1881 (明治14) 年

12月29日、二荒山神社の神官であった小杉富三郎と妻・タエとの四男として、日光の山内で生まれる。本名は国太郎。

1884 (明治17) 年 3歳

国府浜酋太郎の養子となる(正式な入籍は1886年5月)。

1887 (明治20) 年 6歳

2月、実父・小杉富三郎が二荒山神社を辞し、年内に日光御料監守長となる。

1892 (明治25) 年 11歳

6月、五百城文哉が大作制作のために日光を訪れ、そのまま永住する。

1893 (明治26) 年 12歳

6月、小杉富三郎が日光町の2代目町長となる(～1897年2月まで)。この頃、富三郎に連れられ、五百城文哉と出会う。以後、五百城のもとに通いながら洋画を学ぶ。

1896 (明治29) 年 15歳

3月、栃木県尋常中学校を退学する。
5月、五百城文哉の内弟子になる(～1898年まで)。

1897 (明治30) 年 16歳

秋、日光に来た吉田博から刺激を受ける。

1898 (明治31) 年 17歳

8月、《昔語り》下絵制作のため、五百城文哉の紹介で興雲律院に滞在していた黒田清輝を知る。
この頃、五百城文哉に無断で上京する。

1899 (明治32) 年 18歳

この頃、白馬会の研究所に通うが、2日行っただけで止める。
秋、一度帰郷して五百城に謝罪し、再上京する。
10月、小山正太郎が主宰する画塾・不同舎に入る。同期に青木繁や荻原守衛らが出た。
その後22歳頃まで東京と日光を往復し、日光で売った水彩画の代金で画材を買う生活を送る。

1901 (明治34) 年 20歳

5月、国府浜家から離籍し、小杉家に復籍する。この頃から〈未醒〉と号する。

1902 (明治35) 年 21歳

太平洋画会の会員となる。翌年の第2回展から出品。

1903 (明治36) 年 22歳

小山正太郎の推薦で近事画報社に入る。
この頃、田岡嶺雲・佐藤秋蘋・小川芋銭と出会い、親交を結ぶ。

1904 (明治37) 年 23歳

1月、報知新聞および近事画報社の特派員として朝鮮に派遣。じき近事画報社専属となる。
2月から始まった日露戦争の様子を『戦時画報』へ通信する。
9月、帰国。東京にいた姉弟と田端で暮らし始める。
11月、『陣中詩篇』を刊行する。

1905 (明治38) 年 24歳

9月、石井柏亭、川上邦基らと美術文芸雑誌『平旦』を創刊する。
この頃、『近事画報』『新古文林』などの雑誌で、漫画家としても頭角を現わす。

1906 (明治39) 年 25歳

6月、五百城文哉が日光の自宅で逝去。
同月、国木田独歩の仲人で、日光町七里の相良椋吉の長女ハルと結納を取り交わす(婚姻届の提出は1908年1月)。

1907 (明治40) 年 26歳

1月、『漫画一年』を刊行する。
5月、美術雑誌『方寸』が創刊され、寄稿する(1908年から同人となる)。

1908 (明治41) 年 27歳

6月4日、長男の一雄が誕生する。国木田独歩が名付け親となる。
23日、独歩が逝去する。

1909 (明治42) 年 28歳

押川春浪ら武俠社の人々と交遊する。天狗倶楽部を結成し、スポーツ試合を楽しむ。

1910 (明治43) 年 29歳

1月10日、長女の百合が誕生する。
10月、第4回文展に油彩画《杣》を出品、三等賞を受賞する。

1911 (明治44) 年 30歳

10月、第5回文展に油彩画《水郷》を出品し、最高賞であった二等賞を受賞する。

1912 (明治45) 年 31歳

5月、第12回无声会展に参加。日本画や焼絵の作品を出品する。

1913 (大正2) 年 32歳

フランスを中心に、ヨーロッパ各地を遊学する。

1914 (大正3) 年 33歳
3月、満谷国四郎、柚木久太と滞欧作品展を開く。
7月、村山槐多がしばらく小杉家に居候する。
9月、再興された日本美術院に同人として参加し、洋画部を牽引する。
10月、文展から独立した二科会に審査員として参加する。

1915 (大正4) 年 34歳
3月25日、次男の二郎が誕生する。

1916 (大正5) 年 35歳
2月、初めて沖縄を旅行する。

1917 (大正6) 年 36歳
春、初めて中国を旅行する。
10月、日本画による初個展を高島屋大阪心齋橋店で開催する。

1918 (大正7) 年 37歳
田端の文化人たちとの親睦会「交換晩酌会」が始まり、芥川龍之介らと交友する (1922年から道閑会となる)。

1920 (大正9) 年 39歳
9月、再興第7回院展の開催中、足立源一郎、倉田白羊、長谷川昇、森田恒友、山本鼎ら、洋画部同人全員で脱退する。

1922 (大正11) 年 41歳
1月、日本美術院脱退メンバーを中心に、春陽会を創立。リーダー格として晩年まで同会を牽引する。
10月、中国旅行記念に、倉田白羊の雅号「放居士」から「放」の字をもらう。
この頃、福井県の紙漉き師・岩野平三郎と親交が始まる。

1923 (大正12) 年 42歳
この頃から「放庵」の号を使い始め、日本画の制作が中心になっていく。

1925 (大正14) 年 44歳
東京帝国大学安田講堂の壁画を描く。

1926 (大正15) 年 45歳
4月、室内社の西田武雄ら発起による、燕巢会の結成に参加する。
5月、第1回聖徳太子奉讃美術展に出品する。
8月、放庵未醒瀧十題展を孚水画房にて開催。のちに「放菴紙」と称される岩野平三郎の和紙を初めて使用する。

1927 (昭和2) 年 46歳
小杉の提唱により、漢学者の公田連太郎を中心とする漢籍勉強会「老荘会」が発足し、荘子や詩経などが講じられる。
4月27日、三男・三郎が誕生する。
10月、芭蕉の足跡を慕い、岸浪静山 (百草居) と東北・北陸を旅行する。

1928 (昭和3) 年 47歳
1月、富山県八尾町を旅行する。これを機に越中おわら節の新歌詞として「八尾四季」を作詞。これに振付がつけられ、「四季踊り」が完成する。
この年、明治神宮外苑聖徳記念絵画館の壁画《帝国議会開院式臨御》が完成する。

1929 (昭和4) 年 48歳
4月、小堀鞆音、荒井寛方らと栃木県出身の日本画家有志による華厳社を組織する。

1932 (昭和7) 年 51歳
1月、新潟県妙高高原の赤倉温泉に別荘が完成し、安明荘と名づける。
2月、第1回六潮会展に招待出品する。
11月、個展を三越本店で開催する。以後、同店でたびたび個展を開く。

1933 (昭和8) 年 52歳
摺見寺 (滋賀県) のために襖絵の制作を始める。1944 (昭和19) 年までに5点の襖絵を納める。
12月、初めての歌集『放菴歌集』を刊行する。
この頃、「放庵」を「放菴」と署するようになる。

1935 (昭和10) 年 54歳
5月、帝国美術院の改組 (松田改組) が行なわれ、帝国美術院会員となる。
10月、京成で個展を開催する。

1937 (昭和12) 年 56歳
2月、小川芋銭、矢野橋村らと、墨人会倶楽部を結成する。
6月、帝国美術院が帝国芸術院へ改組、会員となる。

1938 (昭和13) 年 57歳
11月6日、三男の三郎が盲腸炎により逝去する。

1939 (昭和14) 年 58歳
4月、ニューヨーク万国博覧会に油彩画《僧》を出品する。
6月、第5回珊々会展に出品。以後、同会に参加。

1940 (昭和15) 年 59歳
4月、華中鉄道株式会社の招聘により、石井鶴三・田中青坪と共に、日中戦争の戦跡を取材する。
12月、石井柏亭、木村莊八、藤田嗣治らと、日本画を描く洋画家の団体・邦画一如会を結成する。

1941 (昭和16) 年 60歳
7月、第2回聖戦美術展に審査員として戦線スケッチを出品する。

1944 (昭和19) 年 63歳
2月、戦艦献納帝国芸術院会員美術展に油彩画《金太郎遊行》を出品する。
10月、軍事援護美術展 (日本美術報国会主催) に《山翁奉仕》を出品。のち日光小学校に寄贈する。

1945 (昭和20) 年 64歳
3月、安明荘に疎開。以後、この地で生活する。

1956 (昭和31) 年 75歳
5月、青森県を旅行、桃川酒造を訪ねる。商標「桃川」の揮毫を頼まれ、翌年書きあげる。

1958 (昭和33) 年 77歳
11月、日光市名誉市民となる。
同月、日本芸術院 (旧・帝国芸術院) 会員を辞任する。

1960 (昭和35) 年 79歳
4月、画業60年展が、朝日新聞社の主催により日本橋高島屋で開催される。

1962 (昭和37) 年 81歳
1月、「小杉放菴 書展」を大阪なんば高島屋美術部画廊で開催する。

1963 (昭和38) 年 82歳
9月、「近代日本美術における1914年」(東京国立近代美術館) に《ブルターニュ風景》など、6点の作品が出品される。

1964 (昭和39) 年
1月、「平櫛田中・熊谷守一・小杉放菴 三合会展」を大阪なんば高島屋美術部画廊で開催する。
4月16日、安明荘にて老衰により逝去 (満82歳)。法名は「放菴居士」。

●
(参照：迫内祐司 編『小杉放菴記念日光美術館 所蔵作品撰 小杉放菴』2024年4月1日発行)

あなたのみちを
あるけるまち。
八王子